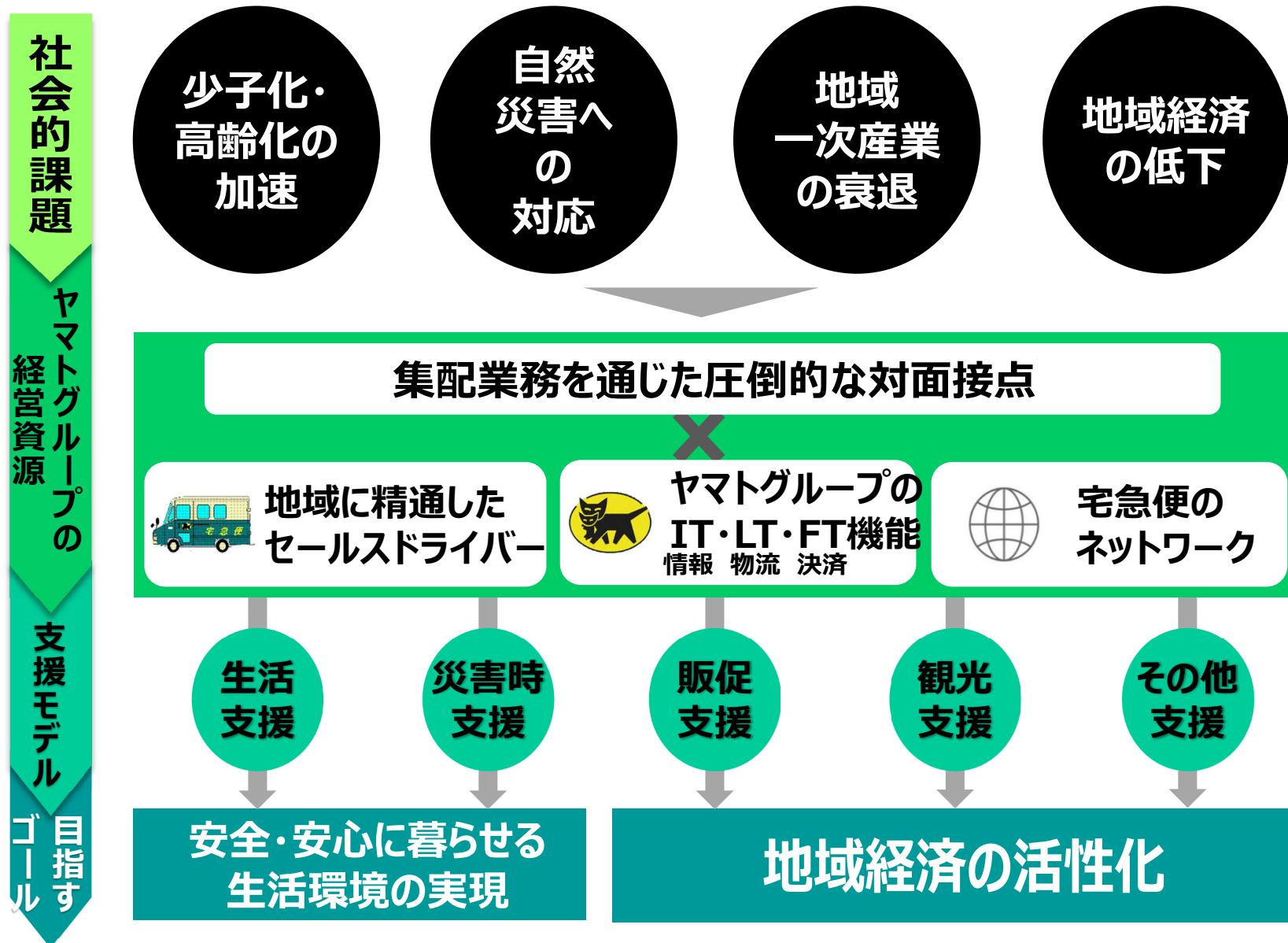


第2回

中山間地域における道の駅等を 拠点とした自動運転ビジネスモデル 検討会資料

2017年12月19日（火）
ヤマト運輸株式会社
執行役員社長室長
黒田 敏夫

1. プロジェクトGの全体概要



2-①. 地域経済の活性化 (赤来高原およびひたちおおた自動運転実証実験①)

自動運転車両を活用した配送実験の実施により、ビジネスモデルを検証

・道の駅を活用した宅配便の配達検証



■ 道の駅を活用した宅配便の配達モデル

ヤマト運輸センターより道の駅へ宅配便(宅急便)をお届けし、現地スタッフにより自動運転車両を使用した配達の実施

地域の高齢者は現地スタッフと同乗し、自動運転車両を使用した宅配便の配達を体験する事で、宅配便に対する就労体験を行い、未来型の高齢者雇用モデルを創出するエリアの特定により複数の配送業者の荷物に対して一括した配送が可能

2-①. 地域経済の活性化 (赤来高原およびひたちおおた自動運転実証実験②)

自動運転車両を活用した配送実験の実施により、ビジネスモデルを検証

・農作物等の宅配便について当日配送モデル



■ 朝採れ野菜などの宅配便について、県内及び近県を対象とした当日配送モデル

集落から自動運転車両にて道の駅までは荷物の回収をおこない
道の駅から宅急便センターに向けて輸送
県内全域に向けて当日配送を実施

2-②. 地域経済の活性化

(大樹町自動運転実証実験)

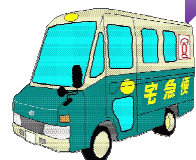
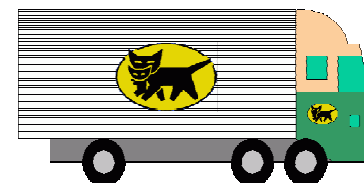
AM 足寄町にてパンを集荷



十勝足寄センター



2便運行車

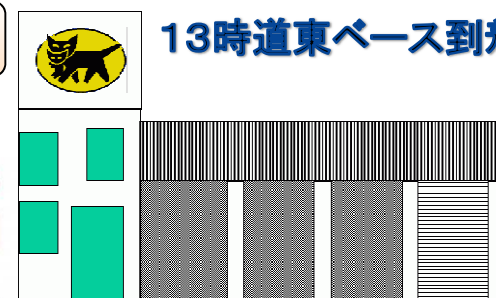
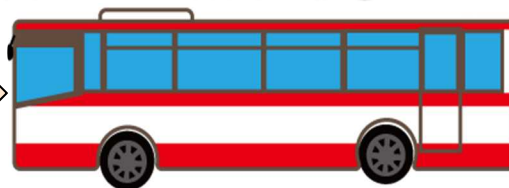


帯広市～大樹町
実験用貸切バス 客貨混載①

ベースにバス停を設置

13時道東ベース到着

実験用
貸切バス



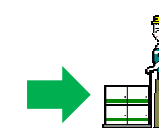
大樹町内 自動運転バスへ 客貨混載②

町内自動運転バスを
利用し現地配達員へ
荷物を客貨混載にて
接続し「バス～個配」
を可能にする。

コスモール大樹

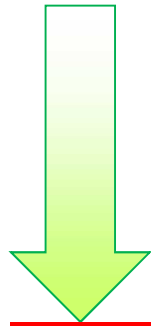
道の駅バス停から
町内自動運転バスへ積み込み

人・もの・情報が集まる交流拠点。

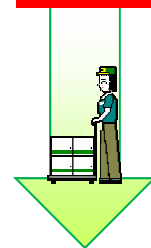
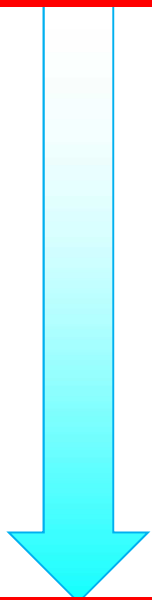


3. 大樹町自動運転実証実験 スキーム

ヤマト



実験



【 作業工程 】

- | | |
|------------------------------|--------------|
| ① 足寄町にて荷物を午前中集荷 | 通常稼働で運用 |
| ② 十勝足寄センターより2便運行車へ積込 | 通常稼働で運用 |
| ③ 道東ベースに13時到着 | 通常運行で運用 |
| ④ 道東ベースのバス停に幹線バス到着 | 実験用貸切バスで運用 |
| ⑤ 幹線バスに積込し客貨混載①がスタート大樹町へ出発 | 実験用貸切バスで運用 |
| ⑥ 大樹町道の駅に荷物が到着 | 実験用貸切バスで運用 |
| ⑦ 道の駅から町内自動運転バスへ積込し客貨混載②スタート | 実験自動運転バスで運用 |
| ⑧ 町内自動運転バス停にFC待機 | 実験自動運転バスで運用 |
| ⑨ 町内自動運転バス停にて配達員（台車）が荷卸し | FCを見立てて台車を使用 |
| ⑩ 配達員（台車）が個人宅へ配達 | FCを見立てて台車を使用 |

4. 地域課題を解決する共創ビジネスモデル

ヤマトが目指している世界

地域が豊かに生活し続けられる場所であり、
人々が住み慣れた地域に住み続けられる世界

(現実)

- ・ 中山間地域でのヒアリング (衣料品店 店主70代女性)
先代の母から引き継ぎ、この土地から離れたくない、婦人服店の事業を続けている。
昔は、店周りには日用品店・酒屋など店々も営業していたが・・・

※道の駅など、複数の集落が散在する地域 (集落生活圏) において、商店、診療所などの日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場所を集約・確保し、周辺集落とコミュニティバス等の交通ネットワークで結ぶことで、人々が集い、交流する機会が広がっていく、ことを目指す

